

循環組合議員が秋川流域を視察しました

あきる野市、日の出町、檜原村で組織する秋川流域開発振興協議会の現場視察が11月21日（金）に行われ、循環組合議員が参加しました。同協議会は、河川環境の保全や魚族の増殖などの事業を通じて、河川環境を保全するとともに、秋川流域市町村の活性化を図ることを目的としています。今回は、あきる野市の秋川国際マス釣場や檜原村及び日の出町の振興対象となる箇所を視察しました。



秋川国際マス釣場を視察する組合議員

二ツ塚処分場で消防訓練を昨年に引き続き実施

10月31日（金）、二ツ塚処分場において、火災時の初期消火で使用するポンプの作動確認・操作方法及び放水を行う消火訓練を実施しました。また、11月18日（火）には、秋川消防署立ち会いのもとエコセメント化施設の自衛消防訓練を行いました。



ポンプを使った消火訓練の様子

AED講習会を行いました

循環組合では、二ツ塚処分場管理棟とエコセメント化施設にAED（自動体外式除細動器）を平成19年8月に設置しています。11月17日（月）及び21日（金）に、秋川消防署の指導のもとAED講習会を行い、組合職員や警備員等が参加しました。講習は毎年実施しており、見学者等が万一の際に備えて使用方法を学びました。



AEDを実際に使って救助を体験しました

日の出だより

日の出町 No.40

多摩地域 東京都 区部

西福寺の「火渡りの行」

毎年、1月の第3日曜日に日の出町にある秋川不動尊西福寺で「火渡りの行」が行われます。この行は、寺の前の広場で護摩が焚かれ、まだ火が残るその灰の上を、無病息災を祈願して裸足で渡るもの。元来は修験道の荒行ですが、一般の方も参加することができます。この機会に、貴重な体験をしてみませんか？

■開催日／2009年1月18日（日）
11時から本堂の護摩・13時から火渡り修行
■場 所／秋川不動尊西福寺（JR五日市線武蔵五日市駅下車（バス20分）
駐車場あり
■お問い合わせ先／秋川不動尊 西福寺 TEL.042-597-0557



無病息災を祈願する「火渡りの行」

いちご狩りを楽しみませんか？

日の出町の「ゆうき園」では、いちご狩りを実施しています。品種は、あきひめ、とちおとめ、紅ほっぺなど。丹精こめて育てたいちごの味を、ぜひお楽しみください。



摘みだてのいちごを味わってみませんか？

＜平成21年 開園日と料金＞（開園日：水・土・日曜・祝日、13時～16時）
期間（開園は水・土・日曜・祝日） 大人 小学生 幼児
1月17日（土）～2月15日（日） 1,500円 1,200円 800円
2月16日（月）～4月10日（金） 1,300円 1,000円 600円
4月11日（土）～ 1,000円 800円 500円

※混み合っているときやいちごの出来具合によっては摘み取れない場合もあります。

■ハウス住所／東京都西多摩郡日の出町平井1578（※のぼり旗が目印）
■連絡先／ゆうき園 TEL／FAX.042-597-0417

（昼間は作業をしているため、電話の場合は夕方、または連絡先をご記入のうえ、FAXでご連絡ください）

循環組合の動き

10月 2日（木）	平成20年第2回正副管理者会議	12月 8日（月）	第20回循環組合技術委員会
10月 14日（火）	平成20年第2回事務連絡協議会	12月 17日（水）	第24回環境保全調査委員会
10月 21日（火）	平成20年第2回理事会		第3自治会谷戸沢処分場監視委員会
10月 29日（水）	平成20年第2回議会定例会	12月 22日（月）	第22自治会二ツ塚処分場対策委員会



ホームページを
ご覧ください

http://www.tama-junkankumiai.com

循環組合では、処分場の敷地内や周辺の土壌、水質など環境調査の結果をホームページで公表しています。ぜひアクセスしてみてください。

発行・問い合わせ先
TEL：042-385-5947 FAX：042-384-8449

「たまエコニュース」の内容やごみ処理に関するお考えなど、みなさまのご意見を、お手紙、FAX、電子メールでお聞かせください。
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内 東京たま広域資源循環組合「たまエコニュース」係
〔メールアドレス〕 sjkumiai@tama-junkankumiai.com



多摩400万人のごみ情報紙

たまエコ

ニュース

発行：東京たま広域資源循環組合

〔事務局〕 〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
TEL：042-385-5947 FAX：042-384-8449

循環組合組織団体

八王子市 立川市 武蔵野市 三鷹市 青梅市 府中市 昭島市 調布市
町田市 小金井市 小平市 日野市 東村山市 国分寺市 国立市
福生市 狛江市 東大和市 清瀬市 東久留米市 武蔵村山市 多摩市
稲城市 羽村市 西東京市 瑞穂町

循環組合は組織団体からの負担金で運営されています

「循環組合」とは

二ツ塚処分場・谷戸沢処分場（日の出町）を管理・運営している特別地方公共団体で、日の出町のみならずの協力を得ながら、多摩地域25市1町の約400万人の可燃ごみの焼却灰をエコセメントとしてリサイクルし、資源として活用。また、不燃ごみの埋立をしています。みなさまと共にごみ問題の解決に取り組んでいます。

3月号

6月号

9月号

12月号

Vol. 48
DEC. 2008

年4回・最終日曜日発行

※掲載内容と時期により、発行日が前後する場合があります。

エコセメント化施設は、
定期的な環境調査の実施で安全管理を徹底
周辺環境への影響はありません

エコセメント化施設は
環境保全に留意し、
管理・運営されています

循環型社会づくりを推進するため、循環組合では可燃ごみの焼却灰からセメントを作る「エコセメント事業」に取り組んでいます。平成18年7月から「東京たまエコセメント化施設」の本格稼動が開始されました。エコセメントの製造はすべての作業を密閉された建物の中で行うなど、安全対策と環境保全に十分な配慮をして施設の管理・運営を行っています。

また、エコセメント化施設では、定期的に環境調査を実施しています。エコセメントを製造する工程で発生する排出ガスや下水道に放流する水について、大気の検査や水質検査等を行い、周辺環境への影響を確認しています。

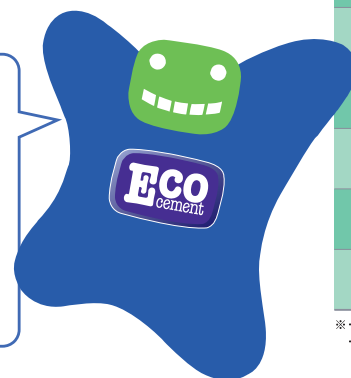
定期的な環境調査でも
周辺環境への影響が
ないことが確認されました

循環組合では、法で規制される排出基準よりもさらに厳しい独自の自己規制値を設定しています。今回の調査では、いずれも規制値を大きく下回る結果が出ており、施設による環境への影響がないことが確認されています。これらの調査結果は、エコセメント化施設が安全管理を徹底して運営されていることを証明するものです。今後も環境の保護に万全を期した管理・運営に努めていきます。

「ND」とは…

「検出されない（Not Detected）」という意味。調査結果が、数値で測ることができる最低のレベルよりも、さらに低い値であることを示しています。

※その他の単位は、中面「表示単位の解説」をご覧ください。



▲二ツ塚処分場とエコセメント化施設

エコセメント化施設排出ガス調査結果
（平成20年4月～6月）

調査項目 （単位）	調査結果		自己 規制値	法規制基準値	
	焼成炉	乾燥機等		焼成炉	乾燥機等
窒素酸化物 （ppm）	11～19	10～11	50	250	414
硫黄酸化物 （ppm）	ND	ND	10	2158	9635
塩化水素 （ppm）	ND	ND	10	430	—
ばいじん （g/m ³ ）	0.004 ～0.008	ND	0.01	0.04	0.35
水銀 （mg/m ³ ）	ND ～0.014	0.014 ～0.027	0.05	—	—
ダイオキシン類 （ng-TEQ/m ³ ）	0.016	0.0029	0.05	0.1	—

※・表中の各数値は、酸素濃度12％に換算した値
・法規制基準値欄のうち、硫黄酸化物及び塩化水素の値は、法に規定する単位をppm単位に換算したもの

資源循環型社会の実現に努めてまいります

最近の調査によりますと、平成19年度の多摩地域のリサイクル率は、過去最高の36.7％となり、全国でも最高水準を示しています。また、処分場に埋め立てられたごみの総量は約10,000m³と、前年度と比べて約56％の減少となり、さらに平成17年度と比べると約89％という大幅な削減を行うことができました。これは、平成18年7月からエコセメント化施設を本格稼動させ、焼却灰を全量エコセメントの原料としてリサイクルすることで、埋め立てるのは不燃物のみとなり、ごみの埋立量を最小限に抑えられたことによるものです。このことは、多摩地域が環境先進地域としての地位をゆるぎないものとしたことにもなり、これを実現できましたのは、皆様のごみの減量に對

する高い意識とご努力の賜物だといえます。

今日があるのは、日の出町が処分場等を受け入れていただいたからこそであり、改めて、ここに日の出町をはじめ、町議会、地元自治会など町民の皆様に深く感謝いたします。

循環組合といたしましては、今後とも、処分場及びエコセメント化施設の安全な管理・運営に万全を期していくことはもちろんのこと、ごみの減量化や資源化など資源循環型社会の実現に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今年も余すところわずかとなりましたが、皆様にとりまして来年が光り輝くすばらしい年でありますよう心より祈念しております。

● 石川良一管理者（稲城市長）



石川良一管理者（稲城市長）

環境対策を徹底し 循環型社会づくりを進めています

定期的に実施している環境調査のデータを公表しています

環境調査

それぞれの水質調査で 安全性が確認されています

循環組合では、谷戸沢・二ツ塚処分場の水質調査を定期的に実施しています。

調査するのは、①ごみの層を通った水（浸出水）、②浸出水を処理した後に下水道に放流している水、③埋立地外の雨水を集め、一時的に貯めている防災用の池の水、④埋立地内の地下水、⑤処分場内と周辺の井戸水などです。

いずれの調査でも基準値を大きく下回る結果となっており、それぞれの安全性が確認されています。

徹底した安全管理により 周辺環境への影響はありません

また、二ツ塚処分場では周辺大気調査も行っています。処分場周辺の大気中の有害物質の濃度は、東京都によって同時期に調査された多摩地区の調査結果と比べて大差なく、環境基準を満たしています。これらの環境調査は、日の出町、地元自治会、循環組合で締結した公害防止協定に基づいて実施されています。

今回の調査結果で、処分場の埋立事業による周辺環境への影響はないことが確認されています。これからも安全管理を徹底した処分場運営に取り組んでいきます。



二ツ塚処分場とエコセメント化施設



二ツ塚処分場での水質調査の様子

処分場内上流側及び下流側井戸の重金属等調査結果 (平成20年4月～6月期)					
調査項目	谷戸沢処分場		二ツ塚処分場		基準値
	上流	下流	上流	下流	
カドミウム (mg/l)	ND	ND	ND	ND	0.01
鉛 (mg/l)	ND	ND	ND	ND	0.01
ひ素 (mg/l)	0.001	ND	0.002	0.001	0.01
総水銀 (mg/l)	ND	ND	ND	ND	0.0005
トリクロロエチレン (mg/l)	ND	ND	ND	ND	0.03
テトラクロロエチレン (mg/l)	ND	ND	ND	ND	0.01

表示単位の解説

※「ND」の解説は表紙をご覧ください。

mg/lとは
1mg/lは、水1lの中に物質(溶質)が1mg含まれていることです。家のお風呂に、食塩を1つまみ落としたときの濃度が1mg/lです。
[表紙掲載の単位]

ppmとは
100万分のいくつという割合を表す単位。気体の場合は、1m³の気体全体の中に対象物質の気体が1cm³含まれている状態が1ppmです。

g/m³、mg/m³とは
1m³の気体(N:気体の標準状態、気温0℃、1気圧)に含まれる物質の量(g、mg)を示します。

ng-TEQ/m³とは
毒性の強さを加味したダイオキシン類の濃度の単位です。「ng」は10億分の1gを表す重さの単位。1ng/m³は、東京ドーム約800個分の空間(※)に1gの物質が含まれている濃度です。
※東京ドーム約800個分の空間…東京ドーム1個124万m³×800＝9億9,200万m³ (約10億m³)



環境調査結果は、ホームページで公表しています。
ぜひご覧ください。
<http://www.tama-junkankumiai.com>

自然回復

埋立が終了した谷戸沢処分場は 適切な維持管理によって 順調に自然が回復しています

谷戸沢処分場では、昭和59年から14年間にわたって、多摩地域から出るごみの埋立が行われていました。平成10年4月に埋立が終了した後も、循環組合では引き続き適切な維持管理に取り組んでいます。

現在、埋立跡地は22ヘクタールの広大な草原になっています。清流復活事業として敷地中に貯水池を設けたことで、水辺を好む鳥類やトンボ類が増加。四季を通じてさまざまな植物が生い茂るなど、多彩な動植物が生息しています。

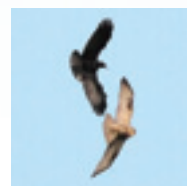
谷戸沢処分場では、定期的に生態モニタリング調査を実施していますが、これまで約1,300種の昆虫類、約100種の鳥類が確認されています。処分場の周辺には日の出町の天然記念物・トウキョウサンショウウオなども生息しており、順調に自然の回復が進んでいます。

アサギマダラ



タマシロ

タヌキ



ノスリとハシボソガラス



晩秋の谷戸沢処分場



ポット苗の育成に取り組んでいます

循環組合では二ツ塚処分場の自然環境の保全にも努めています。広葉樹の種であるドングリをポットで1年間育てて作った苗を、処分場内に残った針葉樹林に補植し、混交林に転換していきます。今年12月に、立川市立第四小学校の協力のもと、ドングリを選別しました。



裁判レポート

平成20年11月7日に、日野市が訴えられていた 違法公金支出差止等請求訴訟の最高裁決定が言い渡されました

この訴訟は、日野市の住民が、循環組合が行っているエコセメント事業は違法であり、日野市が循環組合に対し負担金として支出した額のうち、エコセメント事業に係る分は違法な公金の支出に当たるとして、エコセメント事業に係る分の支出の差止等を日野市長に求めた住民訴訟です。

平成15年12月に提訴され、第一審(平成18年11月10日)、第二審(平成19年8月30日)とも日野市側が勝訴し、最高裁判所でも日野市の主張が認められ、判決が確定しました。

「ごみ減量」アイデア

あなたもやってみましょう!

●生ごみをベランダで処理
ごみの大半は生ごみと思い、3年半前に市の助成金を利用して生ごみ処理機を購入、団地のベランダに設置しました。培養菌が水と炭酸ガスに分解し、500g前後の生ごみを毎日入れてもあふれることはありません。心配だったにおいも、フタを開けた時に少し臭うくらいです。他のごみは分別して、ごみは月に1kg程度。さらにゼロに近づけたいです。(府中市・67歳・男性)

●マイバッグで楽しく買い物
マイバッグを持参することで、ごみ減量につながることも、お店でポイントがもらえたり割引があったりと、一石二鳥の感があり、買い物を楽しみます。お店でいただいた布製のバッグにひもをつけて、重い時にはリュックにして使っています。(国分寺市・67歳・主婦)

100gのごみを減らすには?

重さの目安

きゅうり(1本)	100g	食べ残しをしない
卵(1個)	50g	
レジ袋(Lサイズ)紙袋	10g / 50g	マイバッグを持参する
牛乳パック	30g	お店などの回収ボックスへ(リサイクル)
食品トレイ	5g	

※この他にも、リサイクルできるものはごみに出さずに資源回収に出す、容器のあるものは詰め替え商品を選ぶなども、ごみ減量につながります。

アイデア募集!!

あなたのごみ減量のアイデアをお寄せください。本紙に採用された方には記念品を差し上げます。

※宛て先・メールアドレスは裏表紙をご参照ください。

「地域で取り組む」 ごみ減量 レポート

多摩地域では資源循環型社会づくりをめざし、3R(リデュース、リユース、リサイクル)に関するさまざまな取り組みが実践されています。多摩25市1町のごみ減量の取り組みをご紹介します。

ごみ・資源物の戸別収集で さらに分別を徹底

国分寺市では昨年1月から、ごみ・資源物を各家庭から収集する「戸別収集」を実施しています。

「もやせるごみ、もやせないごみには約50%の異物が混入されていたため、さらなる分別の徹底を図るべく、ごみ・資源物を戸別収集することにしました」と同市ごみ対策課。戸別収集の実施後1年間で、家庭から出るもやせるごみは7.9%、もやせないごみは12.3%も減少しました。逆に資源プラスチックは11.4%増加するなど、大きな成果を挙げています。

また、同市では「リサイクル協力店制度」を制定し、市民・事業者・行政がパートナーシップをとってレジ袋の削減やペットボトルの自主回収などを推進しています。

その他にも、市内の学校給食で出た残さの堆肥化に取り組むなど、多方面からごみの減量化・資源化に力を注いでいます。

国分寺市



▲異物混入の割合が高かったもやせるごみと、戸別収集の実施で、ごみの分別が徹底されている様子



▲給食の残さの堆肥化は市内の小学校5校で実施。環境教育の一環で児童の食べ残しの減少につなげられています

有料指定袋によるごみ収集を実施し、 大幅なごみ減量を達成中!

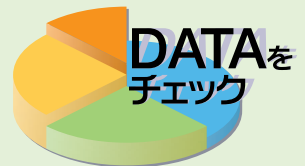
今年4月から、多摩市では家庭系可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチックごみ(ペットボトル、白色トレイを除く)の有料指定袋による収集をはじめました。10月現在までで、ごみの収集量は前年と比較して15.7%減少するなど、大幅なごみの減量を達成しています。

同市では平成18年から、市民とごみ問題に関する意見交換を行う「まったなし!ごみ減量懇談会」の開催、転入者にごみの分別方法などを紹介する「ごみ分別説明コーナー」の設置など、さまざまなごみ減量の啓発活動を行ってきました。また有料指定袋制導入にあたり、全世帯に「ごみ資源の分別ガイド」を配布しました。同市ごみ対策課減量推進担当は「市民の皆さんの理解があるからこそ、有料指定袋制によってごみ減量が進みました。今後も市民の皆さん、事業者、行政が協働して、ごみの減量と資源化に取り組んでいきます」と語っていました。

多摩市

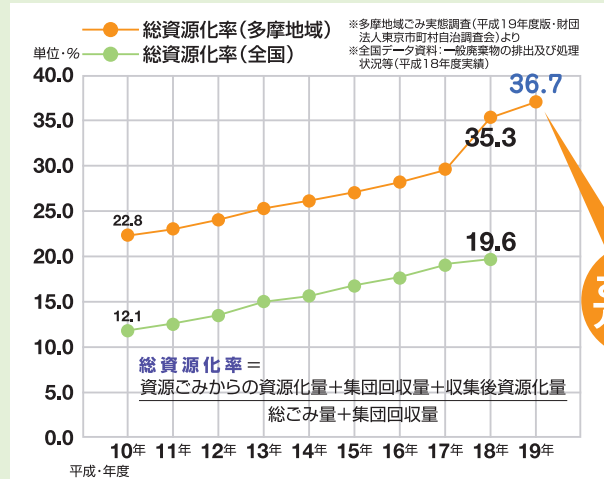


▲市役所に常設された「ごみ分別説明コーナー」では、ごみ減量に取り組むNPOエコ・フレンドリーに業務を委託。市民の目線がわかりやすく説明を行っています。▼全戸に配布された「ごみ資源の分別ガイド」には、ごみの分別方法が詳しく紹介されています



多摩地域全体のリサイクル率は、平成19年度には36.7%に達しました。これは全国平均を大きく上回る数値で、多摩地域のごみ問題への意識が高いことと、平成18年7月から「東京たまエコセメント化施設」が本格稼働し、可燃ごみの焼却灰がすべてエコセメントとして再資源化されたことが要因となっています。

多摩地域のリサイクル率は 10年連続上昇し、36.7%を達成



リサイクル率(総資源化率)とは
ビン・缶・古紙類といった資源ごみを再資源化した量や集団回収量などを合わせ、すべてのごみの量で割った数値です。
※多摩地域ではエコセメント化分を含めて算出しています。

さらにアップ!